



株式会社東京レポートセンター

代表取締役社長 庄 司 貞 夫

新年明けましておめでとうございます。

平成 29 年の年頭にあたり、謹んで新年の御挨拶を申し上げます。

旧年中は、弊社各ビルテナント並びに商業施設の皆様方には、私ども東京レポートセンターの事業運営に格別のご支援を賜り、誠にありがとうございました。

弊社は、竹芝地域のニューピア竹芝ノースタワー、サウスタワー及びホテル棟、臨海副都心地域のテレコムセンタービル、台場・青海・有明フロンティアビルの計 7 棟のビルを所有しており、テナントオフィスを始めとした、商業施設、多目的ホールなどの施設を利用者の皆様に提供しております。

とりわけテレコムセンタービルは、臨海副都心のランドマークとして多くのフロア面積を有し、各種展示会やイベントなどでも活用可能な高さ 37m、面積 2,000 m²超を誇るアトリウムや、「日本夜景遺産」にも選定された 2 1 階の展望台など、多様な機能を提供しています。

平成 28 年は、個人消費と設備投資の伸びにやや停滞が見られたものの、アジア向けを中心とした輸出や、国内の住宅投資が堅調であったため、3 四半期連続で実質 GDP のプラス成長が続くなど、オフィス業界を取り巻く事業環境は多少明るい兆しが見られる状況でありました。

不動産仲介会社の発表などによると、都心部は既存ビルの契約が進み、オフィスビル賃貸市場における空室率が 3 % 台半ばの低水準で推移するとともに、賃料も上昇傾向が継続するなど、全体的な市況は堅調に推移しているものと推測されております。

しかし、平成 28 年から平成 31 年のオフィス市況を見ますと今後 4 年間の新規供給量は、36 万坪、25 万坪、40 万坪、40 万坪と都心部において大量供給が予定されており、今後も従来にも増してきめ細かな取り組みが求められています。

このような状況の中にあっても弊社は、引き続きお客さまから末永く信用され喜んでいただくサービ

スを提供するために全力を尽くすべく、テナントサービスの維持向上に積極的に取り組むとともに、ビル機能の維持向上を図るべく、計画的な修繕・投資に努め、今後も、より一層快適なオフィス環境を皆様に提供してまいります。

これらのことを着実に実行するため、平成 28 年には健全な事業活動を通して企業価値の創出を図るべく、新たに経営理念『私たちは、お客さまから信頼いただける快適なオフィス空間を提供することを通じて、臨海地域の発展に貢献していきます。』を制定いたしました。

弊社ではオフィスビル賃貸のほか、地域内の共同溝などの基盤施設管理や竹芝客船ターミナルや海上公園の管理、臨時駐車場の整備運営、未利用地でのイベント誘致など、様々な事業を行っております。

イベント誘致では、フジテレビの「お台場みんなの夢大陸 2016」や、音楽の大型イベントである「ULTRA JAPAN 2016」など様々なイベントを誘致し、期間中大きな賑わいを生み出しました。

これら様々な事業を通じて、臨海ホールディングスグループの一員として、臨海副都心地域の発展に寄与していくとともに、東京港や臨海地域で活動する企業と、臨海地域を訪れる多くの皆様の安心と安全が得られるよう、災害対策にも積極的に取り組んでまいります。

開催が 3 年後に迫った 2020 年東京オリンピック・パラリンピックでは、ここ臨海副都心地域でも数多くの競技が開催されることにより、外国からの多数の観光客の来訪や、新たな事業の創出により、今まで以上の賑わいが期待されております。

弊社もオフィス空間の提供などを通じまして、微力ではありますが、大会の成功並びに臨海副都心の更なる発展に寄与していきたいという所存です。

最後に、本年が皆様にとりまして、実り多き一年となりますよう祈念いたしまして、新年の御挨拶とさせていただきます。